

《2016 神戸の春アルバム.新緑の但馬路 2016.4.20.》

氷ノ山山系の山郷 大屋加保坂・ハチ北の高層湿原に

氷河期の生き残りの水芭蕉を訪ねる



新緑の但馬路の春景色 山腹をキャンパスに 新緑をピンクの山桜・ミツバツツジが彩る 山が萌え輝く一瞬。

◆ 芽吹きの中 中国山地 但馬路	山腹全体をキャンパスに新緑の中 ピンクの山桜・ミツバツツジが点在 新緑の春景色 山が萌え輝く一瞬・林を彩るミツバツツジ
◆ 養父市大屋 樽見	山腹から里を見下ろす新緑の一本桜 樽見の大桜「仙桜」
◆ 養父市大屋 佐保坂峠	西日本で唯一自生す加保坂峠湿原 南西限の水芭蕉
◆ 香美町ハチ北高原	水芭蕉の里 休耕田の水芭蕉 (ハチ北高原 休耕田栽培地)
◆ 香美町ハチ北高原	ハチ北ゲレンデ 小沼湿原の水芭蕉 (自然環境での水芭蕉観察栽培地)
◆ 香美町ハチ北高原	ハチ北ゲレンデ 丘を黄色に埋める水仙をバックに立つ白樺の木
◆ 但馬路の水芭蕉	但馬路で訪ねた水芭蕉2016

兵庫北部 中国山地 生野峠を超えて兵庫県北西部の但馬氷ノ山山系の古生湿原に咲く水芭蕉を訪ねました。

香気に自然の中に飛び込んでいる場合ではないのかもしれませんが、桜が散って野山は芽吹き 一年で一番輝く季節に。

新聞に「ハチ北高原で、今年も水芭蕉が咲いている」との記事を見て、但馬路の芽吹きの中を思い浮かべ、無性に水芭蕉に出会いたくなって、5月19日に家内と二人 芽吹きの中を眺めながら、西日本で唯一水芭蕉が咲く但馬 養父 大屋加保坂峠湿原やハチ北高原の湿原を訪ねました。

但馬で咲く水芭蕉は栽培しているものばかりかと思いましたが、ほんやりとは聞いたことがありましたが、氷ノ山山系の養父市加保坂峠湿原では氷河期から一万年藻の長きにわたり、水芭蕉にとっては温暖化・乾燥化 そして他の植物との競争を戦いながら、生き延びてきた水芭蕉が静かに咲いていて、思わずがんばれ!!と。

水芭蕉が咲く湿原ばかりでなく、久しぶりに眺めた中国山地 但馬の春。

新緑の山並みは山腹全体をキャンパスにして 芽吹きの中 グラデーションの中に山桜やミツバツツジのピンクをちりばめ、鳥たちのさえずりが聞こえる雑木林 そして人影のないスキーゲレンデの丘一面は紀伊明水水仙のじゅうたんに。

山が萌え輝く最も素晴らしい時でした。

日本各地でも素晴らしい芽吹き・新緑の春景色がみられることだろうと思いつつ、デジカメで但馬の春 山里の春景色を撮ってきました。 元気が出る春の訪れ。 戸外に出て この一番の季節を。

2016.4.26. Mutsu Nakanishi



新緑の但馬路 萌える山並 播但有料道路 朝来周辺 2016.4.19.



新緑の但馬路 播但有料道路 天空の城 竹田城址 2016.4.19.

新緑の但馬路の春景色 山腹をキャンパスに 新緑をピンクの山桜・ミツバツツジが彩る 山が萌え輝く一瞬。



山はミツバツツジが満開 大屋加保坂峠のツツジとバック妙見山



ハチ北グレンデの水仙の中に立つ白樺 バックにはどっしりと妙見山



新緑をまとった一本桜 樽見の仙桜 花がなくともその存在感と美しさは抜群



但馬路の山越えみた山里の景色 加保坂峠から関宮への峠道で

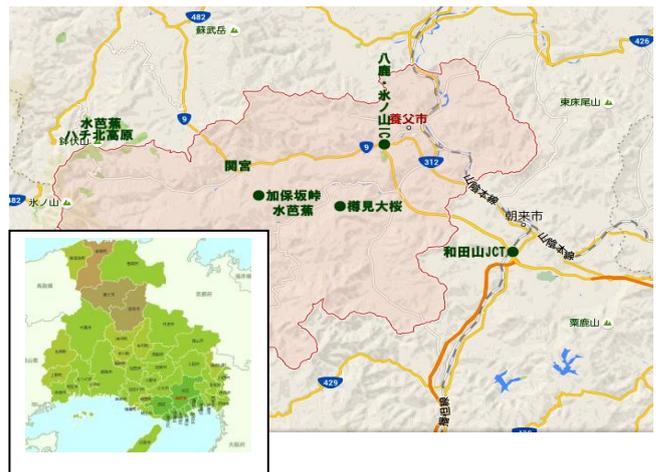
晴天に恵まれ、心地よいドライブ。いつもは地道を行くのですが、今日は但馬路の山中で、場所もあやふや。時間短縮のため、山陽自動車道・播但有料道路に乗って、福崎・生野峠越をして 朝来の和田山ICに出るよく知った道。但馬路は新緑の春一色。山腹をキャンパスに 新緑をピンクの山桜・ミツバツツジが彩る。

もう神戸では桜も散って、ヤマツツジも盛りを過ぎていますが、散ってしまいましたが、但馬路は一番の春景色。峠を越えて朝来にはいり、正面の山の上に今ブームになっている天空の城竹田城址が見えると間もなく和田山。もうここは円山川が日本海へ流れ下る但馬の真ただ中。和田山JCTからそのまま豊岡へ向かう北近畿自動車道に合流してトンネルをぬけると氷ノ山・八鹿IC。ここで高速道路を降りる。養父市八鹿 一つ手前の朝来市和田山とともに京都からの山陰道と神戸姫路から生野峠越えて但馬へ入る街道の合流点で、昔から但馬路へ入る交通の要衝。ここからさらに円山川沿いを北に下れば豊岡。また 中国山地の山中を西北に延びる山陰道を行けば 但馬美方をぬけて鳥取へと続く。

また、ここは氷ノ山・鉢伏山ハイク 関西の冬のスキーのメッカ鉢伏山への入り口でもある。



新緑の但馬路 播但有料道路 養父IC周辺 2016.4.19.



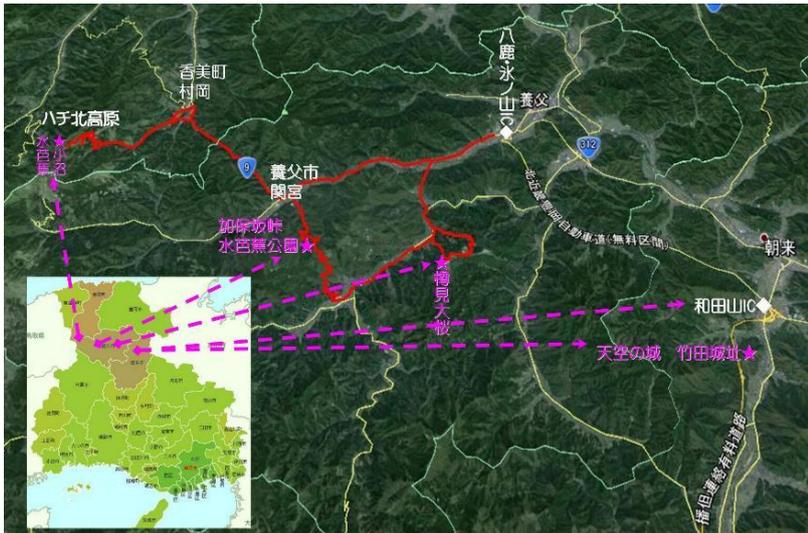
八鹿・氷ノ山ICを出るとすぐ前にある道の駅「八鹿たじま蔵」に入り、観光案内所へ。あやふやだった八チ北高原の水芭蕉への地図をもらいに行く。

この案内所で、思いがけず これもまた あやふやだった養父市大屋町加保坂にある水芭蕉は西日本唯一の自生地であることを知り、そこへの途中に「樽見の大桜」があることを知りました。以前から見たかった一本桜です。

もう葉桜と聞きましたが、ちょっと立ち寄って それから加保坂の水芭蕉を見てから、さらに北に位置する八チ北高原の水芭蕉を見に行くことに。

但馬大屋加保坂・八チ北の高層湿原に氷河期の生き残りの水芭蕉を訪ねるドライブ ルート図

養父市八鹿 道の駅「ようか但馬蔵」→ 国道9・八木川沿い山陰道を西へ→ 剣大橋を渡って南へ県道272・樽見
 → **樽見の大桜**→ 県道6・大屋川沿い加保→ 県道714・北へ川を渡って加保坂峠 **水芭蕉自生地 加保坂湿原**
 → 県道714・北の国道9・関宮→国道9・山陰道 香美町村岡→八チ北口から西へ大谷川沿い県道531・八チ北温泉
 → **八チ北高原・水芭蕉の里**→ 八チ北高原・スキーゲレンデ→ **水芭蕉 大沼小沼湿原** →帰路八チ北口へ
 → 国道9・八鹿道の駅「ようか但馬蔵」→ 和田山から 国道312 生野峠へ



◆大屋樽見の大桜「仙桜」



樹齢500年1000年ともいわれるエドヒガンの但馬随一の一本桜。毎年4月 頂上近くの山腹から樽見の集落を見下ろして咲く大きな桜である。機会があれば是非と思いつつながら、見られずにいましたが、案内所のポスターにこの一本桜を見たくて。
 「もう 葉桜 いても仕方がないよ」と言われながらも ぜひ見たいと道を教えてもらって樽見の大桜入口まで車を走らす。
 ここからは山道を15分ほど 雑木林の中を抜けると 突如 新緑の枝を大空一杯に広げた大きな一本桜が目に入る。立派な一本桜。来てよかったと。



雑木林を抜けた上方 新緑の山腹に若葉を纏った一本桜の巨木
樽見の大桜「仙桜」の堂々とした姿が見えた 2016.4.19.



樽見大桜への登り路 2016.4.20



樽見大桜への登り路 2016.4.20
石段で切り抜けたところの階段は、石の間に草が生えてきた。



大桜のそばに雑木林がかつての集落跡 2016.4.20

樽見の大桜への登り路 雑木林の中 かつては山腹に広がる桑畑だったという組石で区切られた幾つもの
区画の中を上り詰めると視界がぱっと開け、大作が情報に見える。 かつては ここにも集落があったのだろう



大桜のそばに雑木林がかつての集落跡 2016.4.20

「山の神の依代」と信仰されてきた一本桜。かつては樹高が20mはあったというが、現在は樹高13.8m、根回り8m、目通り幹周6.3m。長年の風雪から樹勢が弱まったが、治療を大規模に施し、近年では持ち直しつつあるという。

◆ 南西限の地に自生する水芭蕉 -兵庫の最高峰 氷ノ山山系の山中 但馬の湿地に咲く氷河期の生き残り-
 南西限の自生地 大屋町加保坂峠湿原 & 香美町八子北高原 大沼・小沼湿原ほか
 水芭蕉は初夏尾瀬の印象が強いが、春雪解けの湿原に咲く「春の花」、
 花言葉 「美しい思い出」「変わらぬ美しさ」

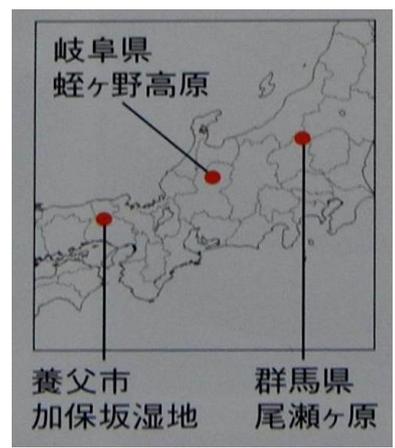


● 南西限の水芭蕉 加保坂峠湿原の水芭蕉
 他の自生地と遠く隔絶された氷ノ山山系の山中 但馬の湿地に水芭蕉が自生するわけ

加保坂湿原の管理をしている地元の管理員の人から この地の水芭蕉の貴重さや発見のいきさつに始まり、草に覆われているこの湿原の下には 古生代からの泥炭層があり、今も豊富な地下水が流れ、湿原を保っている。

この地の土壌は ヒスイなどを出す蛇紋岩質のアルカリ性土壌で、植物が育ちにくく、耕作不適地であったことで、他の植物の侵入や耕地にならな かったなど荒らされず、今までずっと湿地が残ってきたことで、水芭蕉が生きながらえることができたと聞く。さらに いま直面している乾燥化や異種混入排除など この地の水芭蕉を守ってゆく上での厳しい現実などについても色々教えていただきました。

水芭蕉の通常の自生地帯から大きく飛び離れた南西の地但馬に水芭蕉が存在できた理由について、養父市のホームページには次のように解説されている。





水芭蕉が自生する加保坂湿原 2016.4.20.

思っていた湿原イメージと随分違う。乾燥化が随分進んでいて、ほとんど水がみえず、水芭蕉も小さく湿原の草地の中に埋もれている。

目を凝らすと、この草原のあちこちで水芭蕉が咲いている。特にこの湿原の中央部の窪地状のところには葉の大きな水芭蕉が集まって咲いている。



西日本で唯一の自生地 加保坂の水芭蕉
養父市大屋町 加保坂水芭蕉公園

水ノ山山麓が守ってきた水芭蕉の産地の生き残り
分布圏の外側のポイントで生育している
日本西南限 隔離分布の水芭蕉

水ノ山は標高 1510mある兵庫県の最高峰の山。日本海の厳しい寒気の影響を受ける豪雪地帯にあり、西日本でも水ノ山だけに、氷河期の生き残りといわれる北方系の植物が幾つも生育している。この加保坂峠の草に覆われている湿地の下には、分厚い泥炭層があり、乾燥が始まっているとはいえ、今もこの泥炭層を潤す水が流れている。この加保坂湿原の土壌にふくまれる花粉分析調査が昭和 46 年に実施され、深さ 100cm の位置が、C14 年代測定で今から 8190 年前を中心として±115 年という年代が出るとともに、この位置で、ミズバショウと考えられるサトイモ科の化石花粉が全体の花粉の6%という高い数値で確認された。

この結果から この地が水芭蕉自生の自然環境を保持し、また、水芭蕉は1万年前の氷河期から現在に至るまで、生きのびてきた自生地の可能性が高いと判断された。

養父市ホームページ 日本西南限のミズバショウ 解説より

水ノ山の自然環境に恵まれ、他の水芭蕉と隔離された地で 1 年以上の長きにわたり、命をつないできた但馬の水芭蕉はきわめて、貴重な存在といえる。また、尾瀬や他の自生地の水芭蕉に比べ、その大きさが極めて小さいことや、色つやなどに その厳しい毛岸が垣間見え、同じ兵庫に暮らすものとして 思わず 頑張れよと声をかけたくなった。カタクリとともに氷河期の生き残り 水芭蕉が兵庫に自生している。何とはなしにうれしく、元気をもらう春の花になりました。

◆ 但馬は今芽吹きが一番美しい時

山は萌え 満開のミツバツツジが芽吹いた林の中を彩る輝きの時



大屋川沿いの樽見の集落から 樽見の大桜のある山へ 芽吹きが美しい



芽吹き始めた新緑の但馬路 播磨有料道路 朝来奥辺



加保坂峠 湿原に向かう雑木林の中で

◆ ハチ北高原の春



水芭蕉が咲くハチ北の高層湿原 小沼 2016.4.20.



ハチ北高原の桜アザミが咲き始めた黄色の水仙畑が青々とした 2016.4.20. 奥に鈿見山が見えながら、寺町の水仙畑と白樺の木の結核有名と聞く



小沼の肩りの雑木林の中で見た 春の山野草(1) エンレイソウ
早春の山野を彩る花の一つ。大きな3枚の葉が鳥の翼のように広がって真ん中に、小さな花を咲かせる。山地のやや涼しい風のある林内に生え、数本群がって生える場合が多い。花の名は、葉名の延影(影)からで、中国で乾燥した根茎を薬用薬など用にしていたことによる。その植物の葉は、一度乾いたら忘れられないほど印象的な華花である。花言葉は「優ゆかしい」「愛しい」「熱心」。



小沼の肩りの雑木林の中で見た 春の山野草(2) ミヤマカタバミ

ミヤマカタバミ 本州~九州の山地の林の中で、可愛らしい紫色の穂の入った白い花を咲かせる。ハート型の葉を3枚つくる。葉や葉にシロウロコを含んでいるため酸味がある。夜になると葉が閉じ、種を運搬をする。花言葉は「母の愛」。「喜び」「数直」。



「母の愛」。「喜び」「数直」 高山の林の中で、ひっそり、まらかたのぼる花を咲かすことから、上記の花言葉が生まれた。

新緑の但馬 養父・八千北高原
大屋加保坂・八千北の水芭蕉を訪ねる 2016.4.20.



但馬養父市・香美町八千北の位置

訪ねた但馬養父・八千北 ルート図

八鹿氷山ICから樽見の大桜「仙桜」へ

樽見から加保坂峠湿原→関宮經由八千北高原へ

「2016年春 但馬の春景色」水ノ山山系の山懐 養父市大屋 & 香美町八千北高原 2016.4.20.



この「2016年春 但馬 水芭蕉を訪ねる」の動画

<http://www.infokkna.com/ironroad/2016htm/walk13/1605hachikita00.htm>

日本各地でも素晴らしい芽吹き・新緑の春景色がみられることだろうと思いつ、デジカメで但馬の春 山里の春景色を撮ってきました。元気が出る春の訪れ。戸外に出て この一番の季節を。

2016.4.26. Mutsu Nakanishi